

## 授業方法について独自に工夫していること 【人文社会学系】

出欠の際に毎回ランダムに受講生に数字を振り、数字ごとにグループをつくり、グループワークをしている。ランダムにグループを作ることで、アクティブラーニングを取り入れるだけでなく、様々な学生と授業内で交流を図る機会を与え、かつコミュニケーション能力を磨く機会を作る工夫をしている。毎回、異なるテーマにつき、パワーポイントで視聴覚資料を紹介しつつ、民族衣装の実物やクルアーンの現物など、異文化の産物に直接触れる機会を作っている。また、希望者限定で強制ではないということを充分にアナウンスしつつ、昆虫食などの体験機会も提供している。

特に変わったことはしておりませんが、理論的なことを説明した後、実践を行うように配慮しています。やりとりを重視した授業を行っています。

1. 附属の研究発表会への参加や授業を参観してのレポートの提出を求め、成績に取り入れている。
2. 全国教研や県教研のレポート内容を紹介している。

リポジトリにある拙稿をダウンロードさせて、読ませ、活用している。

できる限り、翌年度の教育実習や、今後教員になった時に有益な活動になるよう、授業内の活動を考えたり、そのための議論等を行っています。模擬授業の時間も、グループ分けにしていますが、より長い時間を設定していますので、実習時の授業をイメージしやすいかと思えます。

- ・次回の授業を教科書で予習させている。予習した内容を当日の授業の冒頭の小テストで確認させている。
- ・次回の授業で取り上げる課題を提示し、自分の考えを準備してくるよう指示している。
- ・当日の授業では、準備してきた自分の考えをもとにグループで議論させ、新しい気づきを得られるようにさせている。

1人につき2種類の課題を出し、グループごとに学び合った後、個人個人に学びについて提出してもらっている。  
発表に関して、学生同士が相互に評価(採点・コメント記入)するようにしている。

一番大切にしたことは、授業は(大学の授業といえども)学生たちが主体的に作り上げるものであるという考え方です。学生が楽しく、しかし有意義に授業を作ることができるように支援することが教員の役割であると思えます。そのために、毎回、全員の学生一人ひとりを具体的に励ますことを重視しました。

前半の授業については、授業担当者が異なるため、不明。  
後半の授業については、国語選修、国語・書道専攻における4年間の学びを総括できるよう、国語の専任教員全員で各専門分野での学びを体系的に振り返るようにしている。また、国語教育の分野においては、学外の講師を招いたシンポジウムを開催することにより、これまでの学びが現場での実践に繋がるよう工夫している。さらに、学生が自ら積極的に学びを進めた分野については、当該の分野の教員の個別指導による総括的な学習の場を設定した。

- ・生徒指導・進路指導・キャリア教育を実践する上で必要な理論を学ぶとともに、その理論が実践にどう生きるのか、具体的な事例を通して考える機会を設けている。
- ・学生同士が授業を深め合えるようグループディスカッションを複数回実施している。
- ・グループディスカッションの評価の中に自己評価を取り入れ、自己の成長を意識して活動に取り組めるようにしている。
- ・これまでの当たり前を見直し、新たな視点を得られるよう、ワークのテーマやVTR視聴の教材を工夫している。

◎3631121(3年生)と4631141(4年生)の共通

模擬授業は班別を実施しました。その際に班員全員で、学習指導案の作成や授業展開の方法について検討することを求めました。事前の班員同士の話し合いは、今後の教員としての力量を左右することを徹底させました。また、実際の教育現場にいた私の経験から、教育には、授業、校務、担任業務、部活動、地域社会とのかわりなど、様々な領域があるが、教科指導は根幹をなすものであり、教科指導で生徒の信頼を得ることが大切であること、そのためには、十分な教材研究が重要であり、模擬授業はそれを披露してもらう機会であることを承知して授業に臨むことを徹底させました。

学生の自主的な活動が課外で行われるように、課題の工夫や授業内でのディスカッションを適宜取り入れている。

授業では、毎回プレゼンテーションソフトやGoogle formsなどのICTを活用して学生の内発的動機づけを高める講義を心がけている。主として、授業の前半は理論的解説(含む映像教材を用いた学習)を行い、後半は「ロールプレイ」や「実習」を随時取り入れ、学生自身が主体的に授業に参加できるよう工夫している。さらに、授業の最後には毎回「リアクションシート」を配布し、次回の授業の冒頭にプレゼンテーションソフトを使い学生の質問に回答することで、双方向の授業を心がけている。また、学生の授業外の学習効果促進のため、学生に対しては授業課題レポートを課し、提出された全員分のレポートについては、内容及び形式面に関するフィードバックを行っている。

テキストの適切な使用。  
補助プリントの作成。  
新聞記事等を活用した、現在の教育問題との関連づけ。

・授業開始時に2～3問、時事問題を出しています。  
・毎時間、問題点について、各自で考え、グループで検討し、全体の場で発表させています。授業終了10分前に「授業の振り返り」をする時間を設け、授業の中で気づいたこと、他の学生から受けたアドバイスを次回どのように生かしていくのかなどを考えさせています。

テキストや配布資料の記載内容を根拠に論理的に考え、表現する力を身につけさせるための工夫に腐心している。

・今年度からLMSの一つであるMoodleを授業に取り入れた。本学では「まなびネット」と呼ばれているものである。学校現場でこのようなICT機器を活用できることが求められていることから、講義の途中から学生たちに説明・了解を得た上で導入した。具体的な活用方法としては、講義資料(パワーポイントをPDFにして掲載、関連資料の掲示、関連図書やホームページのURL)を掲示して予習・復習ができるようにしたり、課題の提出先(コメントカードを紙からデジタルにかえ、講義後本を読んだり学生間で話し合ったことをふまえて落ち着いて考え提出することができる)、プレゼンテーションの予習と復習(学生が発表で使うパワーポイント資料を事前に掲示させ予習、コメントを後日掲示＝復習)などで活用した。学生からの評価も好評だったので、次年度以降も引き続き活用予定である。

①国語科研究BI できる限り学生たちに考えさせたり作業をさせる時間を多く取り、なるべく学生自身が動くように配慮した。  
②国語科研究AI 1年生の授業と言うこともあり、「教わる」ことと「教える」ことの違いを意識できるように学生の立場になったり、教える立場になったりして考える授業にした。

小学校国語科の主な学習内容と指導について、中学年を中心に、児童の立場に立ってグループ学習をしたり、ワークシートを使用したりする演習を取り入れ、理解を図ることができるようにしている。

SDGs(国連が2015年に発表した「持続可能な開発目標」)をテーマとして、中学校地理分野を想定して講義を進めていった。学生にはSDGsの17の目標のうち中学校地理分野の内容に合致する部分を分担して発表してもらった。発表に際しては、「民族問題」「廃棄物問題」「気候変動」「水問題」「都市問題」「海洋資源問題」「陸上資源問題」「エネルギー問題」の8項目を取り上げ、各項目について「アジア」「ヨーロッパ」「アメリカ」「アフリカ」「オセアニア」の5地域を学生に担当してもらい、A4一枚のレポートを作成させて発表することを義務付けた。また、4人1組で模擬授業を担当してもらったが、その場合にも必ずSDGsの17の目標に関連させた授業を行うこととした。

あるテーマに沿って、集団討議を行う授業を多数回行った。

CⅡにおいては、日本の書を中心として扱うため、日本書道史を概観したあと、高等学校芸術科書道にて学習される、日本の代表的な書の古典作品を精選し、基本的には各回において、一作品ずつ、系統的に学習できるようにしている。

どのような基準で学業成績の結果を出したか。 【人文社会学系】

総じて、評価は良かったので安堵しているが、「学びねっと」の仕様が教員にアナウンスのないまま変更され、学生からの意見の集約が難しくなったため、問2、問5(以上2問は小レポートを課題として設定すれば改善が見込まれる)、問11、問15(「学びネット」を通じて以前は提出してもらっていた授業の感想の提出ができなくなったため、低い結果になったと予想される)については数字が他に比べて低く出てしまった。学生からの小レポートや毎回の授業の感想を、毎回まなびネットを通じて投稿できるよう仕様の改善を強く望む。本学は情報関係のインフラが貧しすぎると感じる。

上記いずれも以下の基準により評価している。平均は、おおよそ素点で70~75点程度。

- (1) 平常点 45点 (3点×15回)
- (2) 最後のレポート 30点
- (3) 顕著な活躍 25点(模擬授業の授業者、発言、記録用紙提出状況など)

個人のレポートだけでなく、グループワークで、どれだけ積極的に参加しているかも評価に取り入れるようにしている。

テストの点に、出欠を若干加味。

小テスト、レポート課題、授業活動、試験を総合して成績を出しました。設定された課題の提出がしっかりとできていなかったり、必要事項を理解せずに試験を受けていたりする受講生が今年度は目立ったため、例年に比べると評価は厳しめになりました。

- ・一週間で考えてきたことや、当日の授業での考えの深まりをコメントカードに書かせ、その内容を毎回5段階で評価した。(全体の40%)
- ・小テスト(全体の30%)
- ・最終課題(学習指導案作成)の出来具合(全体の30%)

授業中の課題35点。発表30点。相互評価20点。レポート15点。

わたしは愛知県内の他の大学でも教職の授業を担当しています。総じて、教職志望の学生たちは真面目ですので、ほぼ全員が「良い」以上の水準に達しています。その経験によれば、愛教大の学生のレベルは高いです。文章読解力、表現力、考える力、調べる力、そして真面目さで際立っています。数年後には教員としてしっかり授業することができる基礎的な力を有しています。

ですので、授業開始時に、受講生全員が「最優秀」のレベルに達するよう全力で支援しています。教員が全力で取り組み、真面目な愛教大生は応えてくれます。その結果として、成績評価をしました。

授業への取り組み(出席含む)、および各分野の学習に対する効果、また、シンポジウム参加に関わるレポート、さらに専門分野における個別指導の内容を総合的に判断して成績を出した。

- ・講義前半に4回実施した小レポートの得点(各3点×4回)
  - グループディスカッションでの自己評価(各12点満点×4回)
  - グループディスカッションにおける教員からの評価(各3点満点×4回)
  - グループディスカッション振り返り(3点満点)
  - 最終試験(25点満点)
- を合計して算出。  
各評価基準については随時講義内で伝えるとともに、コメントシート返却時に解説した。

◎3631121(3年生)と4631141(4年生)の共通  
 毎回の授業で提出する板書例や課題を含めて、授業に積極的に参加し主体的に学んでいるかを25%、模擬授業を25%、そして、筆記試験を50%として成績を出しました。筆記試験の半分は模擬授業についての問だったので、模擬授業は全体の50%の割合になっています。なお、模擬授業については、教育現場で修正が可能なことについては大目にみるとともに、教材研究の姿勢など、教育現場に出かける前に身につけなければならないことについてはその徹底をはかりました。なお、3年生と4年生とでは、教育実習の有無の差があるので、その点は考慮しました。

◎3631121(3年生)  
 教育実習を行っていないので、十分な教材研究、教壇での姿勢など、教員としての基礎・基本を重視しました。

◎4631141(4年生)  
 教育実習を行っているので、学習指導案、模擬授業、ともに完成度の高いものを求めました。

授業内の取り組み、およびレポートの内容

筆記試験の結果のみ。

授業内容の理解。記述の論理性。  
 履修カルテの2観点。  
 出席状況を加味。

提出物(ミニレポート①～④,短歌(授業で作成),ワークシート,プリントなど)40%  
 受講態度(出席、発表・討論などへの積極的参加など)20%  
 最終レポート40%

2回の筆記試験(持ち込み可)の評価を中心に成績を出している。

- ・ この授業では下記の三つを総合して評価を行いました。
- ① 平常点(コメントカードなどの提出物の提出状況と内容)
- ② プレゼンテーション(発表の準備、当日のプレゼンの内容、振り返りの中身)
- ③ 最終筆記試験

- ①国語科研究BI 毎時間の意見シートやワークシートを中心に、積極的に授業参加をしているかという点を中心に評価した。
- ②国語科研究AI 毎時間の意見シートと教材研究のレポートを総合して評価した。とくに教材をどのように教えたなら良いかを積極的に考えている者に対し高評価とした。

講義の中で話した内容や演習から、小学校国語科の学習内容と指導のポイント等を捉えることができているかについての評価を行った。

授業態度、毎回提出するワークシート、グループワークの成果物、模擬授業に加えて各自で作成する指導案をレポートの代わりとして評価対象にした。それぞれの項目に「概ね満足できる水準」を配点し、基準点を設け、それを基準に評価に値する活動や提出物に対しては加点し、水準に至らないものは減点する方式で成績を算出した。

集団討議での積極性、毎回のコメントシートをもとに評価した。

毎回の授業での、レポートや、模擬授業への取り組み方と、最終まとめ試験をもとに評価を行っている。

## アンケート結果を受けて改善したいところ 【人文社会学系】

小レポートなど、授業外の課題をもう少し増やし、学生の考えをシェアしたり、それをフィードバックする機会を増やしたい。

・パワーポイントでの資料提示後のレジュメ配布は次年度行いたいと考えています。  
・もう少し厳しくコメントしてほしいと言われましたので、それについても今後検討していきたいと思います。

授業に集中してくれることを第一としており、数字的にもほぼ目標は達成できたと考えているが読むべき文献の紹介だけでなく、研究会の紹介など、授業外の学びについても指導していきたい。

特になし。

PowerPointの提示の仕方は、もう少し分かりやすいように改善していく方がいいかと思ひますし、活動内容も、受講者中心の内容のものをもっと増やす方向にしようか考えています。一方で、教員志望ではないためか、授業時の態度があまりよくない受講者がやや目立った感じがしましたので、その対応を考えていきたいと思ひます。

問2や問3の「自分なりに考え、行動する」という回答の割合がより高くなるよう、改善していきたい。

一人ひとりの発表時間を十分に確保しようとして、授業がときどき延長してしまったので、できるだけ気をつけるようにしたい。  
グループ間で、ある程度差が出てしまうため、補足説明をするようにしているが、その説明のしかたがよくないようである。クラス全体に説明する場合は要点のみを確認し、個別対応に切り替えようと思ひます。

わたしは年齢的に、もう授業担当することはないと思ひます。奇跡的に授業ができるのなら、40歳代の気力や体力を取り戻したいです。

授業の前半・後半で担当教員が異なり、アンケート結果が国語の教員によるものだけではないため、改善できる点は限られるものの、問1～3あたりの回答に見られる学生の自主的な学習への取り組みの低さ、および問15に見られる課外での学習時間の少なさは、アンケートの実施時期から推察するに、主に個別指導以外の授業だと思われる。それらの授業においては、学生の取り組みがいのある課題を設定するなどの改善が必要であると思ひます。

・おおむね好意的な評価だったが、Q13授業の難易度が「難しすぎる・難しい」と回答した方が10%程度いたことや、Q14授業内容の量が「多い」と回答していた学生がいたことを考えると、もう少し内容を精査し、丁寧な解説・指導を行っていききたいと思ひます。  
・自由記述でいただいた指摘について、15点という配点は大きいことは確かなのですが、ディスカッションに理由があつて参加できなかった学生に対しては後日そのケースについてレポート提出をすることで対応するとしていたため、そこまで不公平にはならないと考えていました。講義には基本的にすべて出ることを前提に組んでいるためこのような形にしていますが、やむを得ない場合については相談していただければ配慮していきたいと思ひます。

・Q13授業の難易度に対し、「難しい・難しすぎる」と回答した方が10%弱いたことから、もう少し内容を整理するとともに、重要なトピックについては丁寧な講義を心がけたいと思ひます。  
・Q15学習時間については、1時間未満・なしと回答している方が60%程度いたことから、もう少し何をどのように事前してくる必要があるのか、説明をしたいと思ひます。

・おおむね好意的な評価だったが、Q13授業の難易度が「難しすぎる・難しい」と回答した方が10%程度いたことや、Q14授業内容の量が「多い」と回答していた学生がいたことを考えると、もう少し内容を精査し、丁寧な解説・指導を行っていききたいと思います。  
・Q15学習時間については、1時間未満・なしと回答している方が60%程度いたことから、もう少し何をどのように事前してくる必要があるのか、説明をしたいと思います。

◎3631121(3年生)と4631141(4年生)の共通

(1)多くの学生が教材研究の大切さを理解していることが分かります。

(2)私自身も分かりやすい説明や話術について一層の工夫(努力)をする必要があると思います。

◎4631141(4年生)

(1)既に教育実習を行っているため、基礎・基本を習得している学生にとっては満足度が必ずしも高くない。その対策としては、教材開発(教科書を離れた教材の作成)という視点が必要であると思います。

(2)次の時間が昼休みであるので、毎回、学生に話しかけたつもりであるが、一部の学生に限られていた。昼食を一緒にするなど、学生との対話の時間を確保する工夫が必要であると思います。

国語科教育C I の授業において、「③どちらともいえない」を選択した率が他の授業と比べて高い。積極的に①や②の回答を選択できるようにしたい。ただし、問11においては他の授業より高めであるため、学生とのコミュニケーションを増やすことでは学習の質が高まるわけではなさそうであるので、(2)で書いたような課題の工夫等をさらに改善していくことが必要だと考える。

適宜、全体の見直しを図っていききたいと考えております。

今回の「アンケート結果を受けて」ということであれば、とくに改善したいことはない。

新学習指導要領に対応させていきます。

学生相互の話し合いの機会を設けるようにしたい。

・ 授業の振り返りの部分が、以前よりも評価が高くなったと受け止めている。それはやはり「まなびネット」を導入したからだと考える。今後、さまざまな講義・演習でこれを取り入れ、より良い活用方法を考えたい。

①国語科研究BI 問11コミュニケーションが上手くとれているかという点で、「どちらともいえない」という回答が多かったため、方法を改める必要がある。

②国語科研究AI 問15この授業のための週当たりの学習時間が少なすぎるので、適度に課題等を出す必要がある。

講義内容が、より分かりやすい説明の工夫をしていきたい。

授業の難易度に対して、「難しい」と感じている学生が40人中7人いた。社会科で扱うコンテンツに対する基礎知識が不足しているためと思われる。講義の最後に毎回提出するワークシートに学生からの質問や意見を記入する欄があるが、そこに「難しいと感じた点」を書きやすいように修正していきたい。話が聞き取りやすいかに関して、「あまりそう思わない」が6人いたので、マイクの使用を考えていきたい。

集団討議を多く行ったことで、その点についての感想はよかったが、教員の説明や教材、コミュニケーションに関する評価が「どちらとも言えない」というのが比較的多かった。教員が説明するのではなく、学生が集団討議しそれぞれが独自の視点から考え、多様な見方ができることを重視したためだが、その結果、教員からの説明は少なかった。その点が上記の評価になったと思われる。

授業内容や授業方、難易度などは、おおむね好意的に評価されているようであるが、改修工事にともない、書道演習室のが使用できないことから、学習内容を規模の大きな作品へと展開ができないことに対する記述があった。今後は、模擬授業などにおいて、机上だけではなく、床上での作品制作も出来るよう、授業内容だけではなく、書道作品制作に対応した教室を準備するなど、施設面も含めた改善が必要と考えている。